

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	地域水田農業支援緊急整備事業	都道府県名	北海道	地区名	当 麻
-----	----------------	-------	-----	-----	-----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	861,000千円	
年 効 用	②	59,578千円	
廃 用 損 失 額	③	149千円	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数	④	40 年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0521	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤-③	1,143,383千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	1.32	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額（千円）	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	24,971	用水改良やほ場の排水改良による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稲、大豆、ホウチヤ、スイカ、キュウリ
営農経費の節減	営農経費節減効果	35,848	ほ場の区画整理や排水改良による労働時間及び機械稼働時間の短縮に伴う経費削減 対象作物：水稲、大豆、ホウチヤ、スイカ、キュウリ
	維持管理費節減効果	△1,648	用水施設及び耕作道の新設に伴う維持管理費の増 対象施設：用水路、耕作道
施設更新による従前の農業生産の維持	更新効果	407	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持
計		59,578	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	地域水田農業支援緊急整備事業	都道府県名	北海道	地区名	風 連
-----	----------------	-------	-----	-----	-----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	2, 3 7 3, 0 0 0千円	
年 効 用	②	1 8 5, 1 1 6千円	
廃 用 損 失 額	③	7 5, 9 2 5千円	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数	④	3 4 年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0. 0 5 6 1	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤－③	3, 2 2 3, 8 2 5千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	1. 3 5	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額（千円）	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	5 7, 6 7 2	用水改良やほ場の排水改良による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稻、小麦、大豆、小豆、かぼちゃ、アスパラ、玉ねぎ、大根
営農経費の節減	営農経費節減効果	8 9, 8 0 6	ほ場の区画整理や排水改良による労働時間及び機械稼働時間の短縮に伴う経費削減 対象作物：水稻、小麦、大豆、小豆、かぼちゃ、アスパラ、玉ねぎ、大根
	維持管理費節減効果	8, 2 3 7	用排水施設の改修に伴う維持管理費の節減 対象施設：用水路、排水路、耕作道
施設更新による従前の農業生産の維持	更新効果	2 9, 4 0 1	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持
計		1 8 5, 1 1 6	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	地域水田農業支援緊急整備事業	都道府県名	山形県	地区名	村 木 沢
-----	----------------	-------	-----	-----	-------

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	176,400千円	
年 効 用	②	16,973千円	
廃 用 損 失 額	③	—	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数	④	26年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0634	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤－③	267,713千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	1.51	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額（千円）	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	10,851	水田の排水改良等による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稻、大豆、そば、さといも、小麦
営農経費の節減	営農経費節減効果	5,746	排水改良等では場条件が改善されることによる労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：大豆、そば、さといも
	維持管理費節減効果	15	排水施設の改修に伴う施設の維持管理費の節減 対象施設：排水路
施設更新による従前の農業生産の維持	更新効果	361	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持 対象施設：排水路
計		16,973	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	地域水田農業支援緊急整備事業	都道府県名	山形県	地区名	荒 鍋
-----	----------------	-------	-----	-----	-----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	109,250千円	
年 効 用	②	10,694千円	
廃 用 損 失 額	③	—	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数	④	24年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0664	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤－③	161,054千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	1.47	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額（千円）	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	9,117	水田の排水改良等による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稲、大豆、枝豆、そば、メロン、うりい
営農経費の節減	営農経費節減効果	1,112	排水改良等では場条件が改善されることによる労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：大豆、枝豆、そば
	維持管理節減効果	42	用水施設の改修に伴う施設の維持管理費用の節減 対象施設：用水路
施設更新による従前の農業生産の維持	更新効果	423	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持 対象施設：用水路
計		10,694	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	地域水田農業支援緊急整備事業	都道府県名	山形県	地区名	三 川 横 山
-----	----------------	-------	-----	-----	---------

1．費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	67,350千円	
年 効 用	②	11,012千円	
廃 用 損 失 額	③	—	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数	④	17年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0833	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤－③	132,196千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	1.96	

2．年効用の総括

項 目		年効果額（千円）	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	8,758	水田の排水改良等による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稻、大豆、枝豆、ねぎ
営農経費の節減	営農経費節減効果	2,254	排水改良等では場条件が改善されることによる労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：大豆
計		11,012	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	地域水田農業支援緊急整備事業	都道府県名	福岡県	地区名	大城
-----	----------------	-------	-----	-----	----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	42,000千円	
年 効 用	②	8,845千円	
廃 用 損 失 額	③	—	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数	④	23年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0682	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤－③	129,692千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	3.08	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額（千円）	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	4,828	水田の排水改良による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稻、大豆、レタス、ネギ
営農経費の節減	営農経費節減効果	4,017	ほ場の乾田化による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稻、大豆、小麦
計		8,845	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	地域水田農業支援緊急整備事業	都道府県名	福岡県	地区名	椎田
-----	----------------	-------	-----	-----	----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	470,400千円	
年 効 用	②	39,946千円	
廃 用 損 失 額	③	—	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数	④	23年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0686	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤－③	582,303千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	1.23	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額（千円）	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	20,236	水田の排水改良による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稻、大豆、二条大麦
営農経費の節減	営農経費節減効果	19,710	ほ場の乾田化による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稻、大豆、二条大麦
計		39,946	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	地域水田農業支援緊急整備事業	都道府県名	佐賀県	地区名	東与賀
-----	----------------	-------	-----	-----	-----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	769,650千円	
年 効 用	②	91,066千円	
廃 用 損 失 額	③	—	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数	④	18年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0805	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤－③	1,131,254千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	1.46	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額（千円）	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	37,353	水田の排水改良による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稻、麦、大豆、イチゴ
営農経費の節減	営農経費節減効果	22,476	ほ場の乾田化による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稻、麦、大豆、たまねぎ、イチゴ
施設更新による従前の農業生産の維持	更新効果	31,237	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持 対象施設：排水路
計		91,066	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	地域水田農業支援緊急整備事業	都道府県名	佐賀県	地区名	川登
-----	----------------	-------	-----	-----	----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	69,300千円	
年 効 用	②	9,686千円	
廃 用 損 失 額	③	—	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数	④	23年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0682	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤-③	142,023千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	2.04	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額（千円）	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	7,155	水田の排水改良による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稻、麦、大豆、イチゴ
営農経費の節減	営農経費節減効果	2,531	ほ場の乾田化による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稻、麦、大豆、たまねぎ、イチゴ
計		9,686	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	地域水田農業支援緊急整備事業	都道府県名	佐賀県	地区名	江北
-----	----------------	-------	-----	-----	----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	745,500千円	
年 効 用	②	124,244千円	
廃 用 損 失 額	③	—	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数	④	23年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0686	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤-③	1,811,137千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	2.42	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額（千円）	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	87,676	水田の排水改良による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：麦、イチゴ、きゅうり、アスパラガス、キャベツ
営農経費の節減	営農経費節減効果	36,568	ほ場の乾田化による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稲、麦、大豆、たまねぎ、イチゴ
計		124,244	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	地域水田農業支援緊急整備事業	都道府県名	佐賀県	地区名	北鹿島
-----	----------------	-------	-----	-----	-----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	402,000千円	
年 効 用	②	50,407千円	
廃 用 損 失 額	③	—	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数	④	23年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0.0682	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤－③	739,105千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	1.83	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額（千円）	効果の内容
農作物の生産量の増加	作物生産効果	34,333	水田の排水改良による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：大豆、いちご、アスパラガス、麦、たまねぎ
営農経費の節減	営農経費節減効果	16,074	ほ場の乾田化による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稲、麦、大豆、たまねぎ、いちご
計		50,407	

費用対効果分析に関する説明資料

事業名	地域水田農業支援緊急整備事業	都道府県名	大分県	地区名	山 国
-----	----------------	-------	-----	-----	-----

1. 費用便益比の算定

区 分	算 定 式	数 値	備 考
総 事 業 費	①	1 1 2, 3 5 0 千円	
年 効 用	②	8, 8 6 4 千円	
廃 用 損 失 額	③	—	廃用する施設の現存価値
総合耐用年数	④	2 3 年	当該事業の耐用年数
還元率×(1+建設利息率)	⑤	0. 0 6 8 2	総合耐用年数に応じた効用から総便益を算定するための係数
総 便 益	⑥=②÷⑤－③	1 2 9, 9 7 0 千円	
費 用 便 益 比	⑦=⑥÷①	1. 1 5	

2. 年効用の総括

項 目		年効果額（千円）	効果の内容
農作物の生産量の増加	作 物 生 産 効 果	2, 8 7 4	水田の排水改良による転作作物の面積拡大や単収の増加 対象作物：水稲、大豆、きゅうり、ピーマン、ソルゴー
営農経費の節減	営農経費節減効果	5, 6 4 9	ほ場の乾田化による労働時間の短縮や機械経費の節減 対象作物：水稲、大豆、きゅうり、ピーマン、玉ねぎ、ほうれん草
	維持管理費節減効果	1 4 2	用水施設の改修による施設の維持管理費の節減 対象施設：用水路
施設更新による従前の農業生産の維持	更 新 効 果	1 9 9	老朽化した施設の更新による従前の農業生産の維持 対象施設：用水路
計		8, 8 6 4	